

## 本学学生の「オリンピック意識」について

佐 藤 正

### 1. ま え が き

本調査は、モスクワ・オリンピック参加の可否を決定するJOCの緊急理事会（55年5月24日）の開かれる2日前（5月22日）に、本学生（学部3年生217名）について行ったものである。

調査項目は、それ以前4月～5月にかけて、朝日新聞社が行い、5月20日の朝刊紙上に発表されたもの。

昨年の5月（昭和55年）は、わが国のモスクワ・オリンピック参加の賛否について、新聞紙上が大いに賑わった時期であった。JOCは、参加について玉虫色の態度を保っていると非難されたりした。

すでにIOCは、2月12日に開催を確認している。4月12日にアメリカは不参加を通告、5月21日のJOCの調査によれば、参加57ヶ国、不参加50ヶ国、未定38ヶ国という状態であった。

わが国においては、まっ向からの不参加説、入賞可能な種目への参加論、国としてではなく種目別参加の可能性の論議、オリンピック改革論、ギリシア恒久開催論などがとび出していた。

5月20日に朝日新聞は、独自のアンケート調査の結果を発表した。この調査は、スポーツ関係者や各界の有識者に対して、(1)オリンピックをどう見るか、(2)将来のオリンピックは如何にあるべきか、を探るために行われたものである。

JOCのオリンピック参加、不参加の態度決定は、日本人のオリンピック参加、不参加の意識に、決定的な影響力をもつことは明らかである。本学学生の意識の上にも大きな影響があることは明らかである。JOCの態度決定以前に、本学の学生の意識を調査することが必要であった。

朝日新聞社の調査対象は、オリンピックに関心をもつ国会議員（46名）、経済界から（34名）、学識者（大学の学長、総長のほか、各分野の評論家、指導的立場にある人々）（46名）、これまでの五輪選手（6位以内入賞者の数に比例して、全競技に配分した選手（50名）、日本体育協会と地方協会（52名）、JOCと五輪種目以外の競技団体（54名）の6分野から各70名を選んで行われた。回答者282名、回答率67%であった。

本学学生は学部3年生217名である。

## 2. 結果と考察

結果を次の13項目についてまとめてみた。

1. 五輪への関心について
2. 五輪と政治について
3. JOCの静観的態度について
4. モスクワ五輪の意義について
5. 五輪開催の方法について
6. 国家意識について
7. 開催種目について
8. 個人の参加について
9. JOCの構成について
10. プロとアマの参加について
11. 五輪の商業主義について
12. 薬品や特殊用具について
13. 五輪の将来について

資料は、調査項目、人数、%を、前段に本学学生、後段に朝日新聞社のアンケート結果を同じく人数、%で( )内に示した。本学学生と朝日のものとの有意差を $\chi^2$ 検査によって危険率1%を\*\*、5%を\*で示した。なお、残念ながら本学学生の(わからない)が朝日のものと比較して格段と多かった。この分の推定記載は省略した。質問番号は、朝日のアンケートの番号によっているので、順番通りではない。

### 1. 五輪への関心について

問	回答	本学	朝日
問1	オリンピック大会を見たことは？		
	① ある	217名 100%	(273)(97%)
	② ない	0 0	(7)(2%)
問2	五輪に関心は？		
	① ある	199 92%	(274)(97%)
	② ない	4 1%	(3)(1%)
	③ なんともいえない	14 6%	(4)(1%)
問3	オリンピックの意義は？		
	① ある	182 84%**	(273)(97%)
	② ない	11 5%*	(3)(1%)
	③ わからない	24 11%	(4)(1%)

五輪への関心は、回答のほとんどがオリンピックに関心をもち、意義を肯定している。オリンピックを見たことがあるは、本学学生の場合、テレビを通してということであろう。

オリンピックの意義について、わからないが11%あることは、やや意外であった。

## 2. 五輪と政治

問4 五輪憲章は政治の干渉を排除すべきだとしているか？

① 干渉すべきでない	57	26 %**	( 111 )	( 39 % )
② 干渉されても仕方がない	47	22 %**	( 23 )	( 8 % )
③ 五輪も政治からの独立は不可能	70	32 %	( 95 )	( 34 % )
④ 政府が財政援助している以上、政治力をもつのは当然	26	12 %*	( 46 )	( 16 % )
⑤ わからない	17	7 %	( 4 )	( 1 % )

オリンピックは政治から独立すべきであるという考え方は、オリンピック運動の根本理念である。だが、現実の問題としては政府の財政援助がある以上、政府の干渉を完全に排除することには困難な点が多い。オリンピック開催やオリンピック運動推進のためにも多くの政治家、財界の援助をうけなければならぬ現実問題から問4の「干渉すべきでない」と「干渉されても仕方がない」に対する意見は、建前論と本音の争いになる。本学学生の意見は、朝日のものより現実肯定の気持が多く表われている。

問5 米大統領のボイコット提唱について？

① 大統領選挙に利用しているのが不愉快	29	13 %	( 45 )	( 16 % )
② 米国の国益から当然	21	10 %**	( 101 )	( 36 % )
③ 他国に強制すべきでない	134	62 %**	( 125 )	( 44 % )
④ わからない	21	10 %	( 5 )	( 2 % )

さきの政治との関係について、やむをえないと意識しているものの数は予想されたが、他国に強制すべきでない点に半数以上が応答していることは、若者の意識の一端がのぞき見えている。若者の論理、建て前である。

問7 政府がJOCに不参加を勧告しているか？

① 当然	16	7 %**	( 120 )	( 43 % )
② もっと明確に要求しろ	34	16 %	( 43 )	( 15 % )
③ 政府見解は出すべきでない	52	24 %**	( 101 )	( 36 % )
④ わからない	71	33 %	( 12 )	( 4 % )

さきの政府の干渉の範囲の問題であるが、朝日が「当然」について43%と出ているが、本学学生は7%といたって低い。「政府見解は出すべきでない」が、その割には多くなっていない。これは「わからない」の33%に示されているように、この辺りに本音が表われているのかもしれない。

問18 国の援助について？

① 国の援助は期待するな	19	9 %*	( 34 )	( 12 % )
② 独自に費用を工面せよ	5	2 %**	( 32 )	( 11 % )
③ スポーツ振興法から援助するのは当然	180	83 %*	( 211 )	( 75 % )

- ④ わからない 13 6% ( 3 ) ( 1%)

国の援助はスポーツ振興法がある以上当然、との考え方は、大方の意見と同様である。これは、単に現実を割り切った考え方としてみるのではなく、スポーツ愛好者として、又、スポーツや体育の振興についての関心度が強くあらわれているものとみたい。

### 3. J O Cの静観的態度について

問8 J O Cは、まだ静観しているが？

- ① 現状はやむをえない 116 53% ( 158 ) ( 56%)  
 ② 参加を表明すべきだ 73 33%\*\* ( 62 ) ( 22%)  
 ③ 不参加を表明すべきだ 10 5%\*\* ( 50 ) ( 18%)  
 ④ わからない 19 9% ( 6 ) ( 2%)

この時期のアンケートとしては本質問が最重要のものであろう。J O Cの態度に同情的なのは朝日の傾向と同じとみてよい。同情的というより現時点における判断が困難な事情を反映しているのかもしれない。しかし、参加、不参加については、朝日が参加22%に対して本学は33%であり、不参加が18%に対して5%という点から、参加賛成者が一般よりも多いことを示している。

### 4. モスクワ五輪の意義について

問6 モスクワ五輪開催について

- ① 社会主義国初の大会で、五輪の理想から考えて好感を持っている 34 16%\*\* ( 19 ) ( 7%)  
 ② I O Cが開催地を選んだ以上、異存はない 125 58%\* ( 141 ) ( 50%)  
 ③ 世界で物議をかもししている国で開くべきでない 32 15%\*\* ( 113 ) ( 40%)  
 ④ わからない 26 12% ( 5 ) ( 2%)

社会主義国で初のオリンピック、がモスクワのうたい文句であったが、朝日がこれを「理想の実現」として支持したのは7%である。本学学生の場合、この支持が16%いる。「物議をかもした国」に対して開催反対が朝日の場合40%と強硬であるのに対して、本学学生は15%と低い。これは、オリンピックを政治的なものとして見るか見ないかの問題になるのではないか。この当時としては、次第に全国世論調査では、ボイコット論が増していた時期であった。

### 5. 五輪開催の方法について

問9 五輪開催を従来の一都市から複数都市にする案は？

- ① 経済負担が軽減されるのでよい 28 13%\*\* ( 94 ) ( 33%)  
 ② 選手の交流のため一都市がよい 135 62%\*\* ( 155 ) ( 55%)  
 ③ わからない 58 27% ( 23 ) ( 8%)

経済的な問題はニュースで知ってはいるであろうが、まだ強い関心にまでは至っていないで

あろう。従来方式についての肯定が多い。

問 10 一ヶ所で大会を恒久開催する案は？

- |                                |     |       |         |         |
|--------------------------------|-----|-------|---------|---------|
| ① 施設建設費の軽減，自然破壊反対運動の解決に役立つので賛成 | 15  | 7 %** | ( 38 )  | ( 13 %) |
| ② 各国民が身近に接するためにも持ち回り開催がよい      | 123 | 57 %* | ( 187 ) | ( 66 %) |
| ③ 既存施設のある国で開催                  | 35  | 16 %  | ( 43 )  | ( 15 %) |
| ④ わからない                        | 34  | 16 %  | ( 11 )  | ( 4 %)  |

この問題は，大国の政治紛争を避ける目的で，ギリシャが提案した五輪の恒久施設開催案であったが，朝日の場合も13%の支持しかえられなかった。本学においては7%に過ぎない。当然，持ち回りの支持が多い。これは，オリンピック運動を広げたいという願いの表れでもあろう。

問 11 五輪の巨大化について

- |              |     |        |         |         |
|--------------|-----|--------|---------|---------|
| ① 参加選手数を縮小せよ | 30  | 20 %** | ( 106 ) | ( 38 %) |
| ② 参加者は多くてよい  | 148 | 67 %*  | ( 167 ) | ( 59 %) |
| ③ わからない      | 40  | 18 %   | ( 6 )   | ( 2 %)  |

参加者が多いことは，スポーツ活動が盛んになることと連なる。本学学生としては，参加者の多いことを支持するのは当然であろう。

## 6. 国家意識について

問 12 国家意識をおおるチームゲームについて

- |               |     |       |         |         |
|---------------|-----|-------|---------|---------|
| ① やめた方がよい     | 28  | 13 %* | ( 26 )  | ( 9 %)  |
| ② やめる必要はない    | 139 | 64 %* | ( 210 ) | ( 74 %) |
| ③ 出場国，選手数を減らせ | 6   | 3 %** | ( 40 )  | ( 14 %) |
| ④ わからない       | 44  | 20 %  | ( 5 )   | ( 2 %)  |

国家意識をおおるチームゲームとは，これまでしばしば問題になっていたアイス・スケート，バスケット，サッカーなどを指すのであろうが，本学学生も朝日と同じようにやめる必要はないが64%であった。

問 14 国家競争をおおるといわれているマスコミのメタル数の報道について

- |                  |     |        |         |         |
|------------------|-----|--------|---------|---------|
| ① 国民の関心事，やめる必要なし | 127 | 59 %** | ( 129 ) | ( 46 %) |
| ② 不必要            | 6   | 3 %**  | ( 63 )  | ( 22 %) |
| ③ 毎日は不要，最終日だけでよい | 71  | 33 %   | ( 83 )  | ( 29 %) |
| ④ わからない          | 12  | 6 %    | ( 3 )   | ( 1 %)  |

「やめる必要なし」，「やるなら最終日だけでよい」が朝日より多い。「不必要」は3%に過ぎない。

問 15 開，閉会式と国旗，国歌について

- |              |     |       |         |         |
|--------------|-----|-------|---------|---------|
| ① 開，閉会式をやめよ  | 2   | 1 %** | ( 30 )  | ( 11 %) |
| ② 存続させるべきだ   | 143 | 68 %  | ( 176 ) | ( 62 %) |
| ③ 国歌，国旗抜きでよい | 23  | 11 %  | ( 38 )  | ( 13 %) |

④ 旗, 歌, 式ともすべてやめる	3	1 %**	( 20 )	( 7 %)
⑤ 旗だけでなくせばよい	3	1 %	( 2 )	( 1 %)
⑥ 歌だけでなくせばよい	12	6 %*	( 2 )	( 1 %)
⑦ わからない	25	12 %	( 10 )	( 4 %)

問 16 選手のブレザーコート, ユニホームについて

① 必要	142	65 %**	( 136 )	( 43 %)
② 不必要	11	5 %**	( 34 )	( 12 %)
③ 自由にすればよい	43	20 %**	( 100 )	( 39 %)
④ わからない	21	10 %	( 1 )	—

ブレザーコートもユニホームも, これまでのものは国家を表徴していると考えてよい。数としては, 開, 閉会式の存続と, ブレザーコートやユニホームの必要が多かった。

## 7. 開催種目について

問 13 開催競技 21, 203 種目は?

① 競技数を減らせ	5	2 %**	( 38 )	( 13 %)
② 競技の中の種目を減らせ	12	6 %**	( 72 )	( 26 %)
③ 現状のままでよい	55	26 %**	( 26 )	( 9 %)
④ もっとふやしてもよい	117	56 %*	( 125 )	( 44 %)
⑤ 実施競技を入れかえよ	9	4 %	( 7 )	( 2 %)
⑥ わからない	19	9 %	( 11 )	( 4 %)

この質問において, あきらかに朝日のものとは逆転の結果があらわれている。つまり, 種目をもっと増やすことの賛成が半数以上あったことである。体育専攻の者の関心としてはうなづける。

## 8. 個人参加について

問 17 憲章で選手は国の代表でなく, 個人の資格となっている。現在は, NOCの承認が必要だが, 将来は個人参加の道を開こうとの動きに対して

① 統制を保つために現状のままで	66	30 %**	( 160 )	( 57 %)
② NOCに代表決定権だけを与える	58	27 %	( 82 )	( 29 %)
③ 個人の意思にまかせよ	52	24 %**	( 26 )	( 9 %)
④ わからない	41	19 %	( 9 )	( 3 %)

統制する必要があるというのと個人の意思が多いが, 同様にわからないも多い。

## 9. IOCの構成について

問 19 IOCは加盟 144 NOCから 89委員で構成されている。委員の構成は

① 現状でよい	29	13 %**	( 63 )	( 22 %)
② 各国同数の委員で構成せよ	87	40 %**	( 50 )	( 18 %)
③ 各国 1 人と主要国から少数参加	13	6 %**	( 104 )	( 37 %)

- |                |    |      |        |         |
|----------------|----|------|--------|---------|
| ④ 大陸別に均等な委員を選出 | 24 | 11 % | ( 38 ) | ( 13 %) |
| ⑤ わからない        | 63 | 29 % | ( 24 ) | ( 9 %)  |

この問題は学生には難しいと思われる。

#### 10. プロとアマの参加について

問 20 現在の五輪選手はアマチュアか？

- |               |    |        |         |         |
|---------------|----|--------|---------|---------|
| ① アマチュアと思う    | 61 | 28 %** | ( 49 )  | ( 17 %) |
| ② アマチュアとは思わない | 49 | 23 %*  | ( 46 )  | ( 16 %) |
| ③ 大多数はアマチュア   | 73 | 34 %** | ( 126 ) | ( 45 %) |
| ④ 少数はアマチュア    | 22 | 10 %** | ( 49 )  | ( 17 %) |
| ⑤ わからない       | 12 | 6 %    | ( 7 )   | ( 2 %)  |

五輪参加選手の現状について、「アマチュアとは思わない」との指摘が、「アマチュアと思う」とほとんど同数であったことは批判の目のきびしさを表わしている。

問 21 プロの出場も認め、真の世界一を争えよとの意見には？

- |         |     |       |         |         |
|---------|-----|-------|---------|---------|
| ① 賛成    | 38  | 18 %* | ( 62 )  | ( 22 %) |
| ② 反対    | 138 | 64 %* | ( 203 ) | ( 72 %) |
| ③ わからない | 40  | 19 %  | ( 13 )  | ( 5 %)  |

問 22 出場資格を厳しく、純粹のアマチュアだけの大会とする

- |                |    |        |         |         |
|----------------|----|--------|---------|---------|
| ① 賛成           | 65 | 30 %** | ( 126 ) | ( 45 %) |
| ② いまの程度でよい     | 98 | 45 %** | ( 100 ) | ( 35 %) |
| ③ もっと資格を緩和してよい | 29 | 13 %   | ( 36 )  | ( 13 %) |
| ④ わからない        | 26 | 12 %   | ( 14 )  | ( 5 %)  |

五輪選手の出場の現状について「アマチュアとは思われない」が「アマチュアと思う」とほとんど同数であったことは、朝日の場合とは違いがある。本学学生の目の批判のきびしさが表われている。

オリンピックはアマチュア・スポーツの祭典であり、そうあるべきであるとの主張は、世界的にみて「アマ規定は時流に合わせて緩和しよう」という動きとは好対照である。五輪にプロの出場を認めることに反対は一般と同じ厳しい。

#### 11. 五輪の商業主義について

問 23 宣伝広告に登場したり、用具や経済的に援助を受ける選手もいる。商業主義について

- |                  |    |        |         |         |
|------------------|----|--------|---------|---------|
| ① 一切商業主義は排除せよ    | 32 | 15 %** | ( 118 ) | ( 42 %) |
| ② 直接金銭さえもらわねばよい  | 60 | 28 %** | ( 56 )  | ( 20 %) |
| ③ 強化のために使用するのはよい | 79 | 36 %   | ( 100 ) | ( 35 %) |
| ④ わからない          | 46 | 21 %   | ( 4 )   | ( 1 %)  |

朝日は商業主義を排除せよの声が強い。しかし、本学の場合、一般の42%に対して15%と弱い。ここでも「わからない」が21%も出てくる。

## 12. 薬品や特殊用具の使用について

問 24 勝つために特殊な薬品の使用や競技用具に科学的力を利用する傾向は？

① 人間の力だけで競うべきだ	141	65 %**	( 229 )	( 81 %)
② 平等な条件の場合のみ利用も可	58	27 %**	( 42 )	( 15 %)
③ 利用してもかまわない	7	3 %	( 7 )	( 2 %)
④ わからない	10	5 %	( 2 )	( 1 %)

平等の条件の場合だけ良いというのは表現の問題だけで、難しい問題であるが、そこまで考えているかどうか。

## 13. 五輪の将来について

問 25 危機に立つオリンピックの将来は？

① いのままなら消滅的	21	10 %	( 22 )	( 8 %)
② 存続するためには改革が必要	162	75 %*	( 193 )	( 68 %)
③ このままでも存続していける	15	7 %**	( 51 )	( 18 %)
④ わからない	17	8 %	( 14 )	( 5 %)

オリンピックの将来については、「改革が必要」が75%を示している。2年前のI O Cの委員会では「楽観してよい」と「困難はあるが悲観的でない」と見る意見が96%もあったそうであるが、今回のアンケートでは、朝日の場合も、本学学生も、改革の必要を痛感している。世界的な動勢と政治的問題がオリンピックに黒い影を投げかけている現状は否定できないであろう。何等かの改革が期待される。

## 3. ま と め

朝日新聞社によるアンケート25項についての反応は、総体的にみて、五輪に関心をもつ一般とあまり大差は無いと言ってよからう。

しかし、はじめに触れたように(わからない)が目立っていたことは残念であった。

とくに、学生らしい反応として気づいたものをあげてみれば、政治とのかかわりあいについては、「政府に干渉されても仕方がない」が一般よりも多く、現実主義があらわれている。しかし、「他国に強制すべきでない」との国家間の問題についての判断には、学生らしさが表明されている。

モスクワという社会主義国家開催の問題については、I O Cの決定に従うという一般の傾向と同じく半数が反応したが、社会主義国家においてについての好感と反感が同率(15.16%)であったことは、本学学生の穏健な思想の表れとみてよからう。

五輪開催方法については、従来通りの意見が多い。これも一般と同傾向であった。種目、開会式、国歌、国旗、ブレザーコートについて、とくに国家意識を意識することはないようである。あったとしても、当然として肯定している。しかし、今後の五輪の開催については「改革の必要あり」が75%もある。これは、どのようなものになるか。「その具体案は？」という質問が出て「わからない」が多いのでは困ってしまう。